

巻頭言

2017年8月19日、研究室20周年行事（神戸大10周年行事）が開催されました。神戸大学理学部で講演会、そのあと六甲山ホテルで祝賀会が行われました。遠路、神戸まで参集してくれた参加者の皆さんに深謝です。卒業生の講演、いずれも大変嬉しく拝聴させていただきました。六甲山の会場も素晴らしく、企画してくれた世話人の皆さんに重ねて感謝です。東邦大の卒業生（とその家族）が多数参集してくれたことも感激でした。こうした機会は現役学生にとっても励みになり、私にとっても卒業生と会えるのは何よりも喜びです。卒業生の慶事も多数耳にし、嬉しく思いました。思えば前任地での退職記念行事（同窓会）以来、神戸大に着任して瞬く間に10年が経った感じがしますが、私からのメッセージは、あの時に卒業生に贈った言葉と変わりありません。卒業生の多幸を切に祈ります。そして現役学生の将来に資するため、世界の基礎研究に貢献するため、私自身も研究教育に日々励みます。これは私の職業人生の基盤を作ってくださった先生がたへの恩返しでもあります。またいつか、卒業生に会える機会を楽しみにしています。

さて研究室の状況です。今年度は珍しく国際学会には参加しませんでした。春の分子研究会・秋のイオン液体討論会（東京農工大）は充実した内容でした。各人の研究も進展し、クラウンエーテル系イオン液体や、Rh錯体系イオン液体など、様々な題材の論文を出版できました。20年前に東邦大学で一期生と開始したビフェロセンの研究が、現メンバーの協力によってようやく完結し、長年の宿題がやっと終わった感じです。

私の状況ですが、今年度は教務委員長として、各種行事・会議への参加、試験監督等の業務にあたりました。自分では処理も判断もできない大きな案件もありましたが、研究科執行部と教務学生係のおかげで乗り越えられました。教職関連業務（特別支援学校への引率、教職演習の監督）では、先生方と学生達の真摯な姿勢が印象に残りました。一方、会議の多さは異常で、大学の現状を知る機会にはなりましたが、多大な時間的負担になりました。何かにつけて形式主義・非効率・リスクヘッジ症候群等、を感じる事が多々あり、ストレスフルでした。ともかく、こうして研究室を不在にすることが多かったため、研究教育も円滑とはいえず、安全上も不安でした。学生には迷惑をかけたと思います。以下は、だいぶ昔、私がある大学に共同研究で一週間ほどお邪魔させて頂いた折の話です。受け入れ先の教授が会議で連日連夜不在だったため、私は「この先生は会議好きなのだろうか？」と極めて素朴な疑問を持ったものです。これは今にして思えば大変申し訳ない疑問で、自分がその立場になってわかったのは、用務で不在するのはやむを得ないことで、望んでやっているわけでは全くないということです。今にして思えば、あの多忙な状態にもかかわらず滞在を受け入れて下さったことに、誠に感謝です。

最後に全く個人的なことですが、健康診断で異常値がでたため、最近生活習慣を変えて、仕事は朝に行くようにし、週末には定期的に水泳に行くことにし、もともと酒飲みではないですが、飲酒も控えることにしました。もとより本人に全く自覚もなく、その後徐々に検査値も平常に戻りましたが、生活を変える良いきっかけになりました。

今年も、卒業生全員に幸あれと祈ります。

（2018年3月 持田）